

## 生態系を考慮した農業土木学を創出する

### 岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程 環境生態科学コース

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

(最寄り駅：JR 東海道本線 岐阜駅、名鉄岐阜線 名鉄岐阜駅)

E-mail : nogaku@gifu-u.ac.jp

農業のために自然環境を改変する行為は不可避ですが、生態系に負荷がかかることも事実です。そのため、生態系をよく知った上で、新たな環境改変の技術を生み出していくことが農業土木にとって喫緊の課題の一つでしょう。このことは広く認識されていますが、実質的な教育プログラムとしてはなかなか実現していないのではないのでしょうか。私たちの教育プログラムはこの点を目指しているところに最大の特徴があります。

岐阜大学応用生物科学部生産環境科学課程は環境生態科学、応用植物科学、応用動物科学の3コースからなり、農業土木系の教員は環境生態科学コースに属します。本コースは農業土木系と生態学系の教員からなり、農業土木系には8名の教員(伊藤健吾、大西健夫、千家正照、西村眞一、西村直正、西山竜朗、乃田啓吾、平松研)が在籍し、土壌物理学、土質工学、構造力学、水文学、水理学、灌漑排水学、農村計画学を一通り学ぶことができます。また、フィールド科学基礎実習(1年次)、基礎実験実習(2年次)、植物から動物まで広く生物の識別を行う識別実習(3年次の通年実習)、水・土に関する実験法を学ぶ実験実習(3年次)といった充実した実習が用意されています。つまり、4年間の教育プログラムを通して、生態系や生物学に関する幅広い

知識を身につけ、かつ農業土木の専門性も習得することができ、ユニークなカリキュラムになっています。さらに、最近では、現場のことをよく知ってもらうために、東海農政局や東海農業土木事業協会と連携して出前講義や海外インターンシップなどの新しい試みも実施しています。

ところで岐阜県は、全国的に見ても豊かな自然環境に恵まれた地域のため、上記のような教育プログラムを実施するには最適な場所なのです。伊勢湾を奥に木曾川、長良川、揖斐川という日本有数の大河川が広大な濃尾平野を流れ、これらの水を潤す豊かで険しい山地が背後に控えています。そのため、愛知用水をはじめ日本有数の農業水利施設があります。また森林に目を向ければ、木曾川水系に入る下呂には、本学部が所有する演習林があり実習・研究の舞台ともなっています。このようなフィールドに恵まれる中、流域の水・物質循環、水田・森林の多面的機能評価、河川や水路構造物と水域生態系の評価、水利施設の維持管理・更新・小水力発電等の新規利用、農地の土壤環境の定量的評価と制御等、幅広い研究を行っています。研究対象地も、中部地域のみならず国内は北海道や沖縄、国外ではロシア、インドネシア、ラオス、ベトナム等を対象とした研究活動を実施しています。皆さん、ともに新たな農業土木学を創出しましょう。

**資格取得：**学芸員、測量士補、樹木医補、自然再生士補

**就職先：**農林水産省、国土交通省、土地改良区、土地改良事業団体連合会、岐阜県、愛知県、静岡県、滋賀県、三祐コンサルタンツ、NTCコンサルタンツ、若鈴コンサルタンツ、フジクリーン工業、イビデンエンジニアリング株式会社など